

小中連携だより No. 44



令和5年7月18日(火)

広田小中連携推進会

文責 広田小学校 副校長 川口 耕治

広田中学校 主幹教諭 前川 勝則

原点回帰“これまで…、これから…”①

～「小中一貫型広田小中学校」の誕生～

広田小学校と広田中学校が「小中一貫型学校」になって、今年度で7年目を迎えています。当時を知る職員、保護者も少なくなってきたのが現状です。そこで、この小中連携だよりの中で、【原点回帰“これまで…、これから…”】と題し、小中一貫型学校の歴史や意義について、改めて、振り返ってみることとしました。

第1回目のテーマは、『～「小中一貫型広田小中学校」の誕生～』です。当時、保護者や地域の皆様方に向けて配布されたリーフレットを読むと、広田小中学校誕生の背景が分かります。リーフレットの一部を抜粋して紹介します。



広田小学校は、児童数が年々増え続け現在児童数が1,000名を越える県内一のマンモス校となっています。このことで、普通教室及び特別教室、トイレ等の余裕もなく、既存の施設では対応できない状況になっています。このような中、平成27年9月、広田地区自治連合会長を会長とした学校・PTA・地域等の関係者からなる「広田小学校の在り方を考える検討委員会」が発足され、過大規模校による課題の解消について市へ要望書が提出されました。

このことを受けて、早急に対応を図るため、平成29年度から小学校6年生が中学校敷地内に増設する校舎で学習することになります。

【本校が目指す小中一貫型教育とは】

平成27年6月24日に公布され、本年4月1日から施行されることとなりました「学校教育法等の一部を改正する法律」を受け、小規模校を中心に全国的にこの小中一貫教育校が増えてきています。

小中一貫型教育とは、小・中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、体系的な教育を目指すものです。

広田小・中学校では規模が大きすぎ、様々な課題も考えられますので、小学校6年、中学校3年の制度は維持しつつ、小学校6年生を中学校へのつなぎの学年として捉える「一貫型教育」を目指すことにしました。現行の学習カリキュラムを生かしつつ、一小一中及び小学6年生が中学校施設内で学習するというメリットを最大限に生かす教育に向けて準備を進めているところです。この取組は長崎県では初めての取組であり注目もされているところですが、当然心配や不安がないわけではありません。

今後も関係の皆様のお意見を反映させ、より良い一貫型教育の実現に向けて努力して参ります。どうかこの趣旨を御理解いただき、御支援・御協力をいただきますようお願いいたします。〔平成28年発行より〕

これまで、児童生徒の頑張りとお、保護者・地域の皆様方の御理解・御支援によって、この小中連携型学校の取組も軌道に乗ってきました。今後も、子どもたちの健全な成長と明るい未来のために、学校と保護者・地域が心をつなげて、前進していきたいものです。

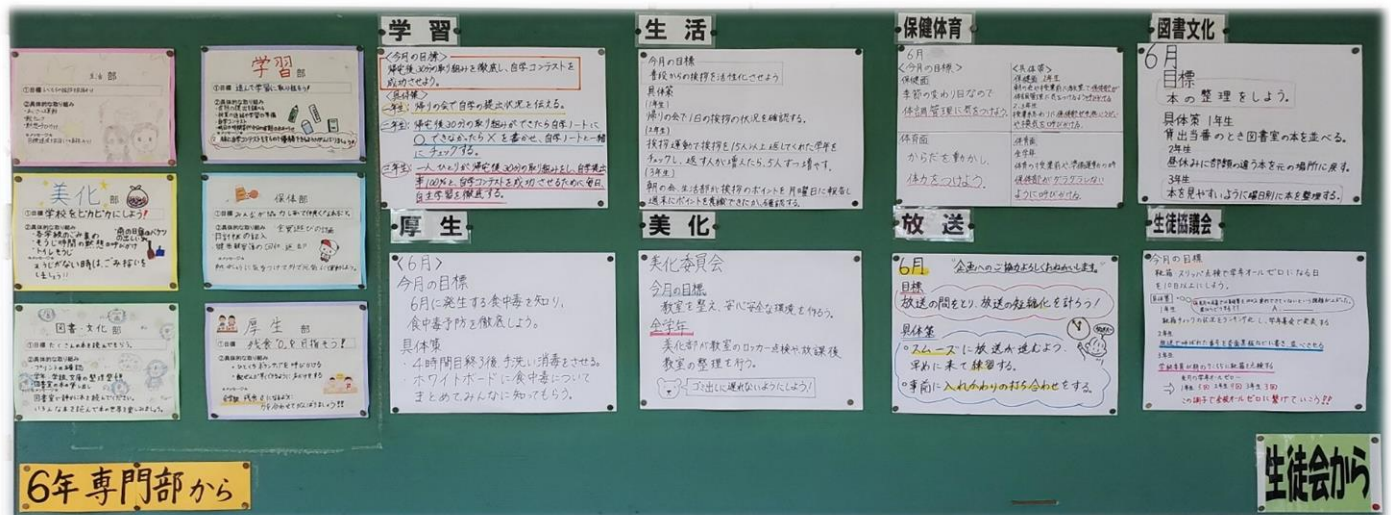
☆ 最近の学校生活の様子を『写真』で紹介します。



市中体に向けて『6年生からの応援寄せ書き』



中庭の『ヒマワリ』が満開



『専門部活動』 互いの活動に学び合う



6. 29平和集会



部活動見学

